

問題場面の児童に対する教師による言葉かけの分類

— 大学生の回答をもとにして —

西 口 利 文¹⁾

問題と目的

児童・生徒に対する教育的影響を理解するために、教師行動を取り扱った研究が、これまでに数多く行われている。Brophy & Evertson (1978) は、教育的影響の理解として教師行動を検討するにあたり、対象となる学年および児童、学級集団の規模、指導内容など、様々なコンテキスト変数を明確にしておくことの重要性を指摘している。そして、教師行動と児童・生徒へ及ぼす影響とを媒介する要因として、コンテキスト変数が大きな意味を持ち、この変数の検討を通じて、教育現場への応用可能な知見を得ることに大きく役立つと述べている。

ここで述べられているコンテキスト変数は、実践される教師行動自体にも、一定の傾向を生じさせていると考えられる。コンテキスト変数のひとつとして、指導対象となる場面の要因を想定できるが、この要因が教師行動に一定の傾向を生じさせていることは、いくつかの研究で示されている。

例えば、Brophy & Rohrkemper (1981) は、Gordon (1974) の「問題所有 (problem ownership)」(ここで述べられる「問題」とは、教師、あるいは児童・生徒に生じる欲求不満やいらだちを意味している) の考えに基づき、24種類から成る場面を、教師が問題を抱える場面、教師および生徒が問題を共有する場面、児童が問題を抱える場面の3タイプに分類し、各タイプでの教師行動について検討している。その結果、教師が問題を抱える場面では脅威、罰を与える姿が目立ち、生徒が問題を抱える場面では励まし、援助を試みることが示されている。その他、梶田・杉村・桐山・後藤・吉田 (1988) の3タイプの事例に対する保育所、幼稚園の保母、教諭の指導についての信念の検討や、西口 (1996) の12場面に対する小学校教師の指導についての検討からも、指導を迫られている場面に応じて教師行動にある程度決まった傾向の現れることが示されている。

ところで心理療法には、システムズアプローチの流れを汲む、短期療法 (Brief Therapy) と呼ばれるものがある。短期療法では、問題があるとされる児童・生徒に介入していく際、彼らをとりにくく親や教師をも対象にして、何らかの実行可能な行動変容を行わせて、コミュニケーションのパターンを変えようという試みが行われる。例えばアメリカの Mental Research Institute (MRI) で行われる短期療法の前提にも、問題を継続させている行動のパターンが適切に変えられれば、その問題は消滅するという考え方が示されている (遊佐, 1984)。また、解決志向短期療法 (Solution Focused Brief Therapy) の介入においても、問題生起時に従来とは何か違ったことを関係者にさせることによって、現状をより良くするという基本ルールが示されている (Sklare, 1997)。

短期療法のこうした方針に基づくならば、教師がある児童・生徒によって繰り返行われているような問題に直面した時、彼らとの間でこれまで行われてきたコミュニケーションのパターンを、教師自身が積極的に変えようという介入が考えられる。もっとも先述の通り、教師が直面している特定場面の下では、教師の働きかけに一定の傾向が生じることになる。このため各場面下では、実践を余儀なくされる行動、逆に実行困難な行動、さらには行動変容のための選択肢となりうる行動が特徴づけられるといえる。短期療法の方針に基づいて、従来の自らの行動パターンに変化を起こすように試みる教師にとって、特定の指導場面というコンテキストの下で、いかなる行動を取り得るかの全体像についての情報は、実践の一助となることであろう。

特定場面の教師行動を検討する際、「しかる」か否か、「やさしくする」か否か、等といった質問を通じて検討することは可能であるが、特定場面下での教師行動をつかむには、かなり大まかな捉え方であるかもしれない。西口 (1996) は、問題場面での教師行動についての検討において、小学校教師を被調査者として、「叱責を与える」「注意を与える」「やさしく接する」「積極的に語りかける」などといった質問項目を用いている。そして一

1) 名古屋大学大学院教育学研究科博士課程 (後期課程)

問題場面の児童に対する教師による言葉かけの分類

例ではあるが、二階の開いた窓の枠に腰かける児童がいて、周りでその仲間がふざけているといった場面では、26人中25名もの教師が「注意を与える」と回答したことが報告されている。この結果は、教師行動が特定場面といったコンテキストの要因から強い影響を受けている典型的な例といえる。しかし、どのような言葉かけを用いて教師たちが「注意を与える」のかといった点まで捉えることによって始めて、多様な「注意を与える」方法の存在が見えてくるとも考えられる。

本研究では、教師行動に特定の傾向を生じさせるコンテキスト変数として、小学校の中でしばしば見受けられ、しかも教師が児童に対して指導を迫られがちと考えられる場面を取り上げる。そして教師行動が、特定場面というコンテキストによって制約を受けるという点に留意しながらも、そうした制約の中で、どういった言葉かけが実践されるかについて確認することを目的とする。

方法

被調査者

教育学部（教員養成系）大学生105名。実施時期は1997年7月であった。

質問紙

西口（1996）が教師用に構成した問題場面（これらは、教師および児童が何らかの要求充足を阻まれている場

面と位置づけられるものであり、教師が何らかの指導を迫られる場面と考えられた）についての記述のうち、日本の小学校で現実に起こっていることが児童報告を通じて確認された10の問題場面（西口，1998）についての記述を用いた。10種類の問題場面は、以下のような見出しがつく内容であった。【A. 内気・引っ込み思案（女）】【B. 授業中の落書き（男）】【C. おしゃべり（女）】【D. 教師への直接的反抗（男）】【E. 怠慢な清掃活動（女）】【F. けんか（男）】【G. 依存児（女）】【H. 孤立児（女）】【I. 危険を伴うふざけあい（男）】【J. 授業を妨げる落ちつきない行為（男）】（Table 1）（以下本文、図表では、【A】～【J】の略記を用いる。）各場面の記述に加えて、被調査者が場面をイメージしやすいように、場面を象徴する線画を加えた（Figure 1）。

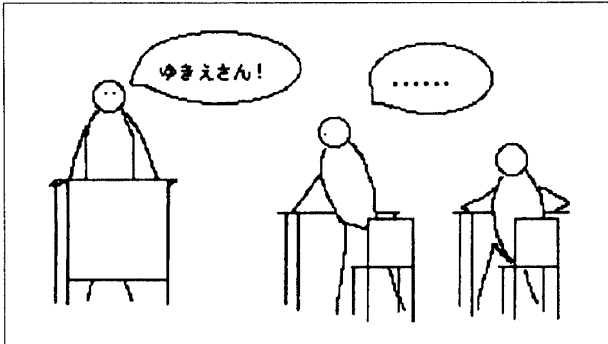
各問題場面に対して、どういった言葉かけが教師によって行われうるかを把握するために、次の3つの質問に、自由記述により回答してもらった形式を取った。

1. あなたがこの場面の先生だとします。子どもにどういった言葉をかけますか。
 2. あなたよりもきびしくする先生がいるとします。子どもにどういった言葉をかけると思いますか。
 3. あなたよりもやさしくする先生がいるとします。子どもにどういった言葉をかけると思いますか。
- 各被調査者に対して3つの異なった質問によって言葉

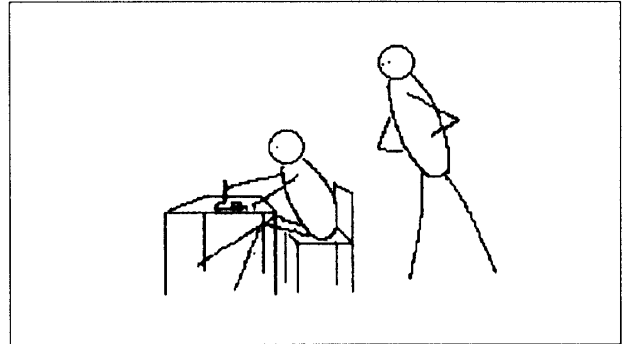
Table 1 問題場面の描写

【A内気・引っ込み思案】ゆきえは聡明なのであるが、内気で引っ込み思案である。彼女はクラスの中に自発的に参加していかないし、あなたが呼びかけても反応しないことが多い。今日あなたが授業中に彼女に質問を投げかけたが、彼女は目を下にに向けたままで何も答えない。
【B授業中の落書き】たかおは一つのこと集中することができないのか、自分の与えられた課題をなかなか仕上げない。あなたは授業で算数の練習問題のプリントを配布し、それを子どもたちにさせている。数分後に彼らの様子を見に回ってみると、たかおの作業量は少ない。プリントに落書きをしていたようである。
【Cおしゃべり】きみえは仲間関係が多く社交的であるが、ただ授業でのけじめがなく、よくおしゃべりをしている。今日の授業でも、自分の周りをきょろきょろして、仲間のまさこと話をしているのが目立つ。
【D教師への直接的反抗】ここ数日、かつひろは授業中によくふざけていて、宿題もしばしば忘れてきていた。今日も宿題を忘れたので、あなたは彼に、「休み時間のうちに宿題をすませるように」と言ったところ、「休み時間は休むためにあるでしょ」と反抗するように言ってふてくされていた。
【E怠慢な清掃活動】せいこたち三人が、掃除の時間にほうきを持ってつっ立ったまま立ち話をしている。あなたはそれを見かけ、きちんとするようにと言ったところ、ためいきをつきながらも手を動かし始めたが、あまり身を入れた様子ではない。
【Fけんか】教室はけんかで混乱している。たかしが自分の席を離れ、ひでおの机に向かっていき、そこでひでおに殴りかかり、罵声をあげている。どうして事が起こったのかはよく分かっていない。
【G依存児】ともこはよく自分のものをなくし、慌てふためき、いつもあなたに助けを求める。今も彼女は自分の帽子をなくしたと言ってあなたに助けを求めている。
【H孤立児】じゅんこは教室にいつも一人でいる子で、他の子どもが遊んでいるのを傍観している。誰も自分から彼女に話しかけたり遊びに誘ったりしない様子である。今日の昼休みも窓の外を一人でぼーっと眺めているようである。
【I危険を伴うふざけあい】あなたが校舎の三階の廊下を歩いていて廊下の角を曲がると、グラウンド側に面した開いている窓枠にまもるが腰かけている。その周りではまもるの仲間たちが、わいわい言いながらふざけあっている。
【J授業を妨げる落ちつきない行為】テストを行う前で、教室は静まっている。あなたがそこで話を始めようとしたときに、しげゆきが椅子から転げ落ちた。他の子どもの視線は彼に向き、彼は苦笑いを浮かべている。あるものが笑いだし、それにつられて他の者も騒がしくなった。

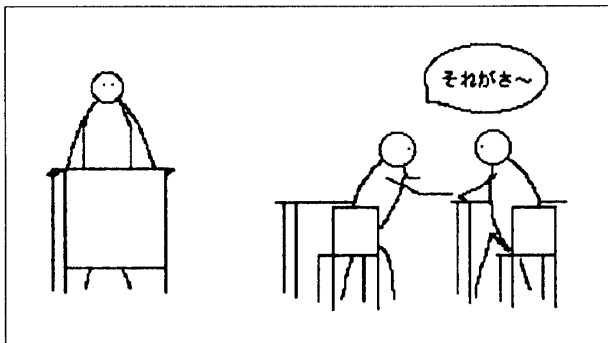
【A. 内気・引っ込み思案】



【B. 授業中の落書き】



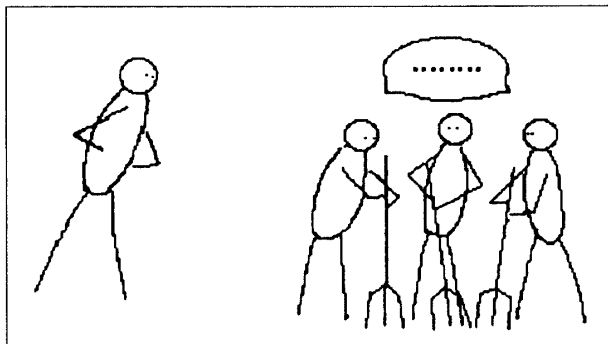
【C. おしゃべり】



【D. 教師へ直接的反抗】



【E. 怠慢な清掃活動】



【F. けんか】

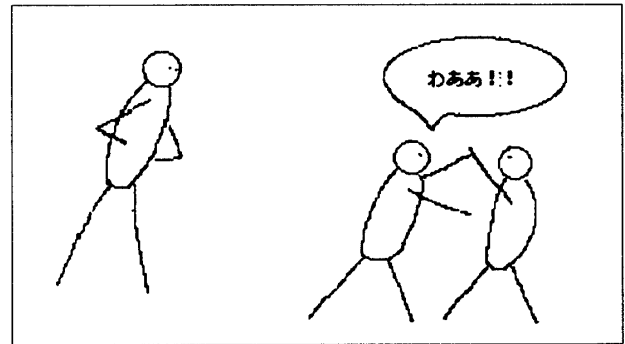


Figure 1-1 問題場面の描写 (場面【A】【B】【C】【D】【E】【F】)

かけの回答を求める形式を取ったのは、各場面で実践しうる言葉かけを、できる限り網羅して抽出できるようにするといった意図によるものであった。

実施手続き

教育心理学に関する2つの授業の各受講者に協力してもらった。両者の授業に出席している受講者には、2度行わないように配慮した。10場面に対する回答を自由記述で考えてもらう形式をとったため、質問紙に着手し始めた時点での回答よりも、数場面への回答を終えた時点での回答の方が、疲労による影響を受ける可能性が考え

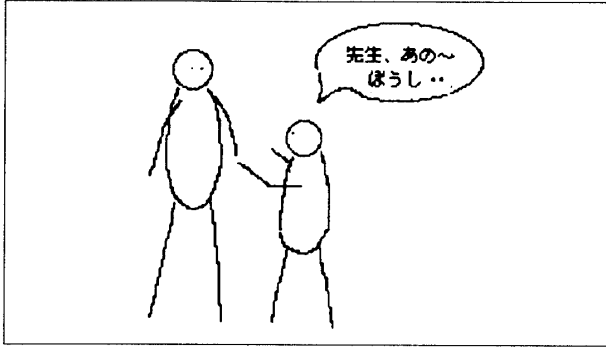
られた。そのためこうした影響が特定場面に集中しないように、表紙を除く計10枚の用紙（1枚につき1場面への回答を求める形式を取っていた）の綴る順番をあらかじめカウンターバランスした。そして回答してもらう際には、回答する順を前のページから後のページへと進めていくように教示した。

分析手続き

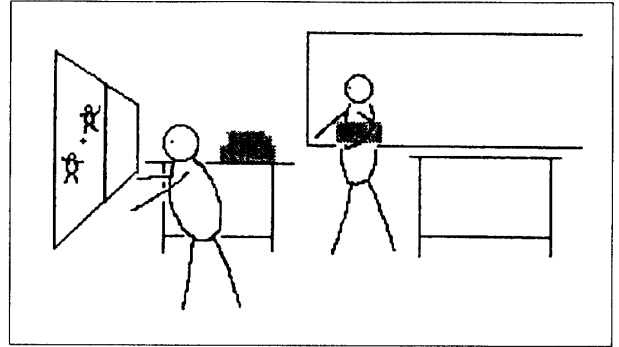
まず言葉かけの内容を区分、整理するためのカテゴリーの構成を行うことにした。その際、言葉かけの傾向を場面間で比較することも可能になるように、全場面で共通

問題場面の児童に対する教師による言葉かけの分類

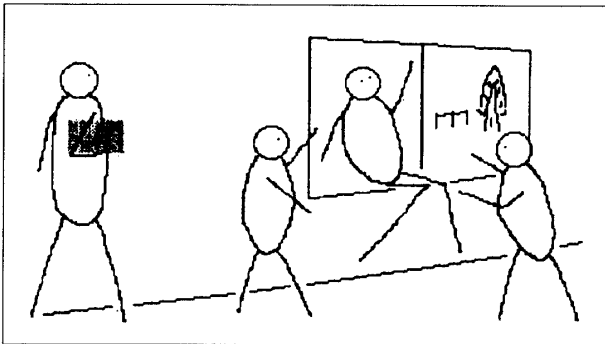
【G. 依存児】



【H. 孤立児】



【I. 危険を伴うふざけあい】



【J. 授業を防げる落ちつきない行為】

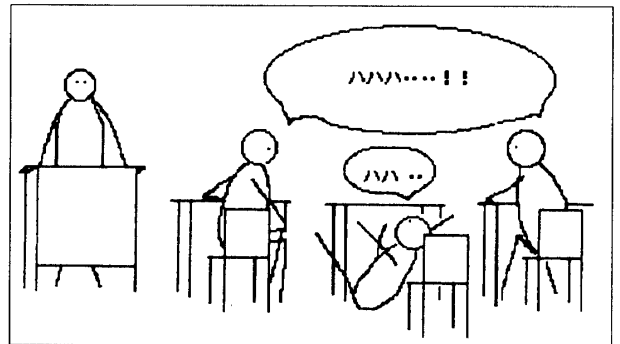


Figure 1-2 問題場面の描写 (場面【G】【H】【I】【J】)

して用いることのできるカテゴリーを構成することにした。

全場面共通して使用可能なカテゴリーを作成するには、全場面から得られた言葉かけの回答すべてを一度に利用してKJ法(川喜田・牧島, 1970)を行うという手続きも考えられた。しかし、全場面の言葉かけの回答をすべてあわせると、およそ3000に及ぶ回答数になり、これらを一度に利用してKJ法を行うのは困難であった。そのため、以下の手続きをとることにした。

まず各場面別に、その場面で得られた言葉かけの全回答をKJ法によってまとめることにした。各場面とも、全回答が8～15のグループに集約されるまでグループ編成を行った。そしてKJ法の手続き通りに、各グループには、その内容を代表する見出しをつけた。他の回答とグループになることができなかった1枚の「紙切れ」についても、ひとつの独立したグループとみなした。なおこうして作られたグループの見出しを、本論では「初期グループ見出し」と便宜的に呼ぶことにする。

上述の分類のみでは、各場面ごとに異なった基準で言葉かけの内容が分類されていることになる。そのため、先のKJ法によって各場面で出現した、初期グループ見

出しのみを全場面分ひとまとめにして取り上げ、再びKJ法を行った。初期グループ見出しの集約は第1段階までとして、この段階で形成された各々のグループにつけられた見出しを、言葉かけ内容を区分するカテゴリー(以下、「言葉かけカテゴリー」とした。そして、あらためて言葉かけの回答を、このカテゴリーに適合するように再分類するという手続きをとった。

結果

方法で示した手続きで、各場面ごとのKJ法によって出現した「初期グループ見出し」をもとにして「言葉かけカテゴリー」を構成したが、その結果、17のカテゴリーを取り出した。カテゴリー名、カテゴリーの特徴ならびに各カテゴリーに集まった「初期グループ見出し」はTable 2に示したとおりである。

Table 2のカテゴリーをもとに、ひとつひとつの回答をあらためて再分類する手続きをとったが、その際【J】において、どの単一カテゴリーにも含むことのできない言葉かけ群が出現した。それらはすべて、〈配慮〉と〈指示〉の両カテゴリーの内容を含んだ回答であった。そのため、〈配慮と指示〉というカテゴリーを

Table 2-1 「言葉かけカテゴリー」と各カテゴリーに含まれる「初期グループ見出し」

-
- (1) 指示…児童に要求する行動に即した指示をする。
- 【A】●とにかく答えることを要求 ●顔を上げるように要求
 - 【B】●問題に取り組むことの要求 ●落書きするな
 - 【C】●授業にふさわしい態度を取ろう
 - 【D】●休み時間にやりなさい
 - 【E】●掃除をしよう ●きれいになるまで終わらせないぞ ●「やってっか？」
 - 【F】●とにかくやめさせる ●けんかは良くないと指摘 ●静かにしなさい
 - 【G】●独力で探すことを要求 ●ものをなくしやすい理由を考えさせる
 - 【H】●クラスメートと外で遊ぶことをすすめる
 - 【I】●窓枠から降りることを指示
 - 【J】●まず静ませることから
- (2) 忠告・意見…児童の特定の行動に対して忠告や意見を示す。
- 【A】●ゆきえの態度に対して意見
 - 【B】●いつ落書きすべきかを示す
 - 【D】●宿題は忘れずにやろう ●休み時間に宿題を要請していけないわけではない
 - 【E】●掃除への不十分な取り組みについて指摘
 - 【F】●双方どうし話し合いを通じて解決をうながす
 - 【G】●なくしものすることを批判 ●持ち物の自己管理を要求
 - 【I】●落ちたら大変な目にあうことを強調 ●危険であることを呼びかける ●落ちないように気をつけなさい
 - 【J】●しげゆきを注意
- (3) 罵り…児童の特定の行動に対して罵ったり怒鳴ったりする。
- 【B】●「おもしろくないけ、何もせんでええわ、ずっと書いてドアホ！」
 - 【D】●反抗的態度に対して怒る
 - 【F】●バカ、コラッ
 - 【J】●「静かにしろ、そんなんほっとけ」
- (4) 罰…要求する行動を取らない児童に対して罰を示唆したり宣告したりする。
- 【B】●やる気がないなら出ていけ ●「おい、全然できてないじゃないか、何やってた、たかお。お前は次の休み時間なしだ」
 - 【C】●移動を要求
 - 【D】●やらないならば～するぞ
 - 【E】●「やる気がないなら～！」と一喝
 - 【F】●罰を示す
 - 【I】●「こら～お前、あとで職員室に来い」
- (5) 婉曲的な指示…児童への要求に直接焦点を当てずに、要求する行動を遠回しに意図した語りかけをする。
- 【A】●名前を呼びかける ●だまる
 - 【B】●クラスメートが問題を解く様子を意識させる ●問題の進行状況をたずねる ●「それは計算には見えないよ」
 - 【C】●先生も話しへの参加を試みる ●授業に関係のある話ならば… ●しゃべりたいことがあればみんなにも聞かせて ●落ちたら自分の責任だぞ ●「先生の代わりに授業をやって」 ●自分が黙る ●「先生の授業はおもしろくないかな」 ●「みんな注目～」 ●授業に関連のある話題をふる ●「きみえちゃん、きみえちゃん」 ●「仲がいいね」
 - 【E】●やり方次第で早く終わるから ●敢えて怠慢な様子につきあおうとする ●「ある程度きれいになったら終わっていいよ」 ●「先生はきれい好きな子が好きだなあ」 ●「掃除できたら一緒に遊ぼうか」
 - 【G】●自分でいろいろ探したの？
 - 【I】●どこで何してるんだ ●先生自身の冷や冷やする思いを伝える ●「ふざけて落ちたら誰が責任とると思うんだ」 ●「落ちろ」
 - 【J】●何やっているんだ
- (6) 協力…児童が直面している問題の解決に協力する。
- 【F】●三者による話し合いの機会を設定
 - 【G】●一緒に探すということを提案 ●なくした帽子の手がかりを問う ●クラスメートにたずねる
- (7) 譲歩…児童に対する要求を一部あるいは全てを引っ込め、児童の要求との調整をはかる。
- 【A】●その場はひとまず座らせる
 - 【B】●「次の時間までにやってきてください」
 - 【C】●しゃべる機会は許すが…
 - 【D】●その日の休み時間以外にするよう要求 ●言い分を考慮する姿勢 ●宿題をやるように強制しない
-

注：「 」のついた初期グループ見出しは、単一の回答（紙切れ）を表す。

問題場面の児童に対する教師による言葉かけの分類

Table 2-2 「言葉かけカテゴリー」と各カテゴリーに含まれる「初期グループ見出し」(つづき)

-
- (8) 簡単な語りかけ…児童に対する要求やそれに従わせようとする事とは無関係の簡単な語りかけ。
- 【B】●「君は将来漫画家にでもなりなさい」
 - 【D】●「ちゃんと復習しとけよ、テストに出るぞ～」
 - 【H】●「一人でいるのが好きなんだね」
 - 【I】●「一緒に遊ば」
 - 【J】●「しげゆき君どうしたの？先生ビックリしちゃったよ」
- (9) 問いかけ…児童の内面や特定の行動を起こしていることの原因などについて問いかける。
- 【A】●ゆきえの心を探る
 - 【B】●問題に取り組んでいない状況にまつわる問いかけをする
 - 【D】●宿題を忘れた理由を聞く
 - 【E】●何、どうして、の問いかけ
 - 【H】●じゅんこの様子を気にかけた質問
- (10) 現状肯定…眼前の児童の行動および様子について肯定的な見方をしていることを示す。
- 【A】●絵に対する関心を示す ●「少しでもやっただけえらいわ、やりたくないときってあるものね」
 - 【E】●現状を肯定する
 - 【H】●「別に無理に遊ばなくてもいいんだよ」
 - 【J】●生じたハプニングをリラックスの場と位置づける
- (11) 軽蔑・呆れ…特定の行動を取っている児童に対して軽蔑したり呆れていることを示す。
- 【A】●ばかにするような感じ
 - 【C】●「また、おしゃべり娘か！」
 - 【E】●掃除をきちんとできない様子を嘆くように ●「言っている意味が分からないの？」
 - 【I】●危ないという意識のなさを見下すように指摘
 - 【J】●「いつになったらテストできるのかしら？みんなテストしたくないのかな？でもやるからね」
- (12) 不介入…眼前の児童の行動および様子について全く関わらない。
- 【B】●声をかけない
 - 【C】●「ほっておく」
 - 【F】●何も言わない
 - 【H】●「声をかけない」
 - 【J】●「さて…(テストの話をする)」
- (13) 励まし…児童が直面している問題の解決へ向けて励ましを与える。
- 【A】●ゆきえの気持ちを後押し
- (14) 簡単な応答…児童の語りかけに対して簡単な応答をする。
- 【G】●「あら、帽子なくしたの？」 【G】●「本当に持ってきたの？」 ●「そうか、こまったね」 ●「どこにいったんかなあ」
- (15) 配慮…児童に対して心づかいを示す。
- 【H】●じゅんことともに活動しようとする ●外についての話題をきっかけに話しかける ●日常生活の話題をきっかけに話しかける
 - 【J】●しげゆきへの気づかい
- (16) 判断の委ね…児童による特定の行動が望ましいのかどうかについて、児童自身に判断を委ねる。
- 【F】●特にけんかを批判しない
- (17) 静観…眼前の児童の行動および様子についてしばらく静観する。
- 【F】●見てる
- 後に補足
- (18) 配慮と指示…ある児童に対して心づかいを示しながら、別の児童に何らかの指示を行う。
-

Table 3-1 「言葉かけカテゴリー」に基づく回答の再分類（場面【A内気・引っ込み思案】：有効回答287）

<u><指示 (138)></u>	
●とにかく答えることを要求 (129)	「呼ばれたら返事ぐらいしろ-7」「だまってちゃわからん-16」「何か答えやんか：しゃべったらどうだ-3」「わからなかったら『わかりません』って言いなさい-8」「何でもいから答えなさい-86」「何か意見はないのですか？-1」「ゆきえさん、君の意見が聞きたいな-3」「きちんと授業に参加しなきゃダメじゃないか-2」「みんな待ってるんだぞ-2」「どうなの？ゆきえ-1」
●顔を上げるように要求 (9)	「うつむいてちゃだめ：こっちを見て：まず顔をあげて：こっちを見る-9」
<u><忠告・意見 (1)></u>	
●ゆきえの態度に対して意見 (1)	「言わないことは考えないのと同じです-1」
<u><罰 (9)></u>	
●とにかく答えることを要求 (9)	「何か答えを言うまで立ってろ：答えるまですわらせないぞ：そのまま立っとれ-9」
<u><婉曲的な指示 (6)></u>	
●ゆきえの心を探る (5)	「本当はわかってるんでしょ-2」「間違ったって恥ずかしくないよ-3」
●名前を呼びかける (1)	「ゆきえちゃん、ゆきえちゃん-1」
<u><協力 (1)></u>	
●ゆきえの気持ちを後押し (1)	「じゃあ一緒に考えようか-1」
<u><譲歩 (71)></u>	
●その場はひとまず座らせる (71)	「もう一度考えてください。あとでもう一回あてるから-19」「答えは分かっているのかな。ノートに書いてくれていいよ-2」「みんなの前で答えられないなら後で先生にだけ教えて-7」「そうか、また明日当てるからね-1」「じゃあ別の人に聞いてみましょう：他の子に聞いてみようか：誰かゆきえさんを助けてあげましょう、分かる人？-15」「じゃあ座っていいよ：分からないか、じゃあ座って：はい、着席-27」
<u><簡単な語りかけ (12)></u>	
●ゆきえの心を探る (12)	「君ははずかしがりやさんだな-3」「これは難しい問題だよな-2」「どうした難しいか-2」「ゆきえさんには難しかったかな-2」「恥ずかしいのかな-3」
<u><問いかけ (25)></u>	
●ゆきえの心を探る (25)	「どうして答えないの？-1」「何で分からないの？ちゃんと聞いてた？-1」「どうした、何が分からないんだ-1」「全然わからないの？：どこがわからないの？-17」「どうしたの？：具合悪いの？：私ゆきえちゃんに悪いことした？-5」
<u><軽蔑・呆れ (5)></u>	
●ばかにするような感じ (5)	「こんなこともわからんのか-1」「ゆきえ、どうしてそうなんだ-1」「口がないのか-3」
<u><励まし (7)></u>	
●ゆきえの気持ちを後押し (7)	「もう少し頑張ってみようか-1」「さあ、もう一度集中するぞ-1」「お前なら分かるだろう-2」「あなたならできる-2」「さあ、自信を持って-1」
<u><配慮 (11)></u>	
●とにかく答えることを要求 (11)	「質問の意味が分からないの？もっと詳しく説明するね-8」「ではこういう質問はどうだ-3」
<u><静観 (1)></u>	
●『だまる-1』	

注：表中の（ ）内および「 」内の数字は、該当カテゴリーに回答された総数を表す
（以下の Table 3-2 から Table 3-10 に記載の数字も同様）

問題場面の児童に対する教師による言葉かけの分類

Table 3-2 「言葉かけカテゴリー」に基づく回答の再分類（場面【B授業中の落書き】：有効回答298）

<指示 (227)>

●問題に取り組むことの要求 (92)

「早く（ちゃんと）問題をやりなさい-49」「今は休み時間と違うんやぞ。はよプリントやらないかんやろ-1」「プリントちゃんと時間内にするんやよ-1」「たかお君、今は算数のプリントをする時間やで、早く-1」「なるべく早くしてね-1」「早く問題をしないか、この落書きは！一体何しに来てるんだ-1」「早く問題を解いて、何度も見直しをしなさい-1」「お前はいつも集中力がないんだな、早くやれ-1」「何をやっているんだ！さっさとしないと遅れるぞ-1」「たかお、やるのが遅いぞ-1」「時間がないよ：もうすぐ時間だぞ-3」「まじめに問題に取り組むように-1」「絵を描くのめいけど練習問題をやろう-2」「上手な絵だね、でも今はお絵かきの時間じゃないよ-14」「本当にできないの？ゆっくりやっつけていよ-2」「間違ってもいいから考えてみよう-1」「もうちょっと考えてみようか？-1」「どうしたの？わかんなかったらちゃんと質問しなきゃダメでしょ-1」「もう一枚プリントあげるから頑張っとうね-1」「今は何をしなきゃいけない時間なの？-4」「たかお～よゆうだねえ、落書きしててもみんなに後から追いつく自信あるんだねえ、さっ、真剣に今からやろうか-1」「たかお君、どれだけできたかな。あれ、全然進んでないけど難しかったかなあ、なんか落書きがあるぞ！ほらがんばらな-1」「自分でしなさい-1」「いい加減に落ちつきなさい-1」

●落書きするな (75)

「おいこら～！落書きすんな、はよけさんか～-1」「たかおくん、それは落書きをする紙じゃないのよ-1」「落書きをしなさいって課題はどこに書いてあった-1」「落書きをしないで！残ってもらよ-1」「絵を描いても答えは出ないよ-1」「落書きなんてしないで問題を解きなさい-55」「落書きなんかしてるから問題ができないんだよ-1」「授業中に落書きするな-14」

●問題に取り組んでいない状況にまつわる問いかけをする (31)

「問題を解いてないのに何をやっているんだ-1」「何やってんだ：何してるのかな-13」「こらっ、何やってるんだ-5」「分からないのかな、もう少し頑張ろう-7」「課題は難しいかな？できることから手をつけてみようか-1」「まだプリントちょっとしかやってないよ。もうやらないの？-1」「どうして、やれといたらことができない？：まじめに取り組めない？-2」「たかお君、どうして君はそんなにやった量が少ないの？遊んでたんだろ？-1」

●いつ落書きすべきかを示す (22)

「絵は休み時間に書きましよう-4」「練習問題をやり終えてから余分なところに絵を描くのはいいよ-1」「落書きは問題が終わってからにしよう-17」

●クラスメートが問題を解く様子を意識させる (5)

「早くしないとみんなに置いていかれるよ-1」「早くやらないとみんなから取り残されるよ-1」「ほら、みんな出てくるよ-2」「どうして落書きしてるの？みんなまじめにやってるわよ-1」

●問題の進行状況をたずねる (2)

「問題はできたの？-1」「進んでる？-1」

<罵り (1)>

●「おもしろくないけ、何もせんでええわ、ずっと書いとけドアホ！-1」

<罰 (4)>

●やる気がないなら出ていけ (3)

「やる気がないなら授業受けなくてよろしい-1」「お前、やる気あんのか、ないんやったら今すぐ教室を出ていけ-1」「やる気がないなら教室から出ていけ-1」

●「おい、全然できてないじゃないか、何やってた、たかお。お前は次の休み時間なしだ-1」

<婉曲的な指示 (6)>

●問題に取り組むことの要求 (2)

「プリントもう一枚いる？-1」「じゃあ、たかおはこの問題を黒板で解いてみなさい-1」

●問題に取り組んでいない状況にまつわる問いかけをする (1)

「もうやめか-1」

●「それは計算には見えないよ-1」

●いつ落書きすべきかを示す (2)

「この問題解いたら（今度）先生にも書いてよ-2」

<協力 (4)>

●問題に取り組むことの要求 (4)

「先生と一緒に解いてみよう-2」「いっしょにやろうか-1」「たかお君、問題を解きなさい。分からないなら教えてあげるから-1」

<譲歩 (1)>

●「次の時間までにやってきてください-1」

<簡単な語りかけ (2)>

●問題に取り組んでいない状況にまつわる問いかけをする (1)

「算数はつまらないよね-1」

●「君は将来漫画家にでもなりなさい-1」

<問いかけ (32)>

●問題に取り組んでいない状況にまつわる問いかけをする (32)

「お前にはこの問題は簡単すぎて、やる気が起らんか？-1」「今日の授業、つまんないかい-1」「どうした、問題が分からないのか-24」「この前やったところ忘れちゃったかな？-1」「どうしたの？-4」「気分転換してるの？-1」

<現状肯定 (15)>

●絵に対する関心を示す (14)

「それは何だ！何マン？-1」「これって何の絵？-1」「なかなか面白い絵だね～先生にも見せてくれ-1」「上手に書けたね-4」「うまい絵だね-4」「何書いてるの？見せて-1」「落書きを見せて-1」「楽しいことしてんな-1」

●「少しでもやっただけえらいわ、やりたくないときってあるものね-1」

<軽蔑・呆れ (1)>

●問題に取り組んでいない状況にまつわる問いかけをする (1)

「何してるの！まったくこの子は！-1」

<不介入 (2)>

●『声をかけない-2』

<励まし (3)>

●問題に取り組んでいない状況にまつわる問いかけをする (3)

「算数は苦手？でもきっとできるよ-3」

Table 3-3 「言葉かけカテゴリー」に基づく回答の再分類(場面【Cおしゃべり】:有効回答279)

<指示(206)>

●授業にふさわしい態度を取ろう(203)

「きみえ、ちゃんとしろよ-1」「ちゃんと聞いてますか?-1」「その二人、うるさいよ-8」「うるさし-1」「いい加減に
なさい-1」「しゃべるな-3」「静かにしなさい:私語をするな:おしゃべりをやめな-72」「二人ともそろそろ終わりなさい-
1」「きみえちゃんはおしゃべりだな、しずかに-2」「おしゃべりは後にしてね-1」「きみえさん、楽しいことは悪いけどやめ
てね-1」「おしゃべりはちょっとまって-2」「おしゃべりは私の話が終わってからにしてね-1」「話すことは少しがまんし
よ-1」「けじめを付けることが大事だよ-2」「授業が終わるまでがまんしや-1」「授業中はまわりと話をしない-1」「授業中
は友達どうしてしゃべる時間じゃないの-2」「他の人とおしゃべりが出来るのはいいことだけど、授業中におしゃべりするの
は良くないぞ-1」「きみえちゃん、授業中はお口のチャックは閉じとこうね-1」「仲がいいのはいいけれどもっとまわりを考
えられるようになろう-1」「あなたの気持ちは分かるけど今は授業中だから静かにしてあげて-1」「明るいのはいいけど他の
人の迷惑になってるよ-1」「静かにして、まわりに迷惑になるから-10」「授業中だからおしゃべりは休み時間にしなさい-1
5」「静かにしろ、授業が続けれんんじゃないか-1」「授業中は静かにしてね、私は授業をみんなにしたいし、みんなにも聞い
て欲しいの-1」「しゃべるなら寝ろ-1」「きみえちゃん、どうしてそんなにおしゃべりするの?-1」「それもきみえにとって
大切なことだが、授業も大切なことだぞ-1」「今は何の時間?おしゃべりタイム?-1」「今は授業中です-11」「今は算数を
やる時間ですよ-1」「今は放課後ではありませんよ-1」「今は何の時間?君はどうすべきなのかな-1」「先生の方を向きな
さい、今は休み時間じゃないんだぞ-1」「誰がしゃべってるのかな?授業はちゃんと聞こうね。おしゃべりしてたら質問するわ
よ-1」「授業に集中しなさい-2」「授業を聞きましよう-25」「こっちを向きなさい-20」「授業に対するおしゃべりならい
けど違う話だったら休み時間にして-2」

●先生も話への参加を試みる(1)

「きみえさんがしゃべりたいことがたくさんあるのはわかるけど、そういうことは休み時間に話してね、先生も聞きたいわ-1」

●授業に関係のある話ならば…(2)

「何の話をしてるの?先生も一緒に話したいな。でも内容は今やってることに関連したものを話そうね-1」「どこが分からない
の、別の話はだめだよ-1」

<罰(26)>

●移動を要求(26)

「きみえちゃん、どうして君は毎回毎回そうなんだ。ろうかに立ってなさい-1」「立ってなさい-3」「二人は授業の邪魔だから
後ろで立ってなさい-1」「二人ともろうかに立ってなさい-1」「外で大声でうたってこい、できるんか~おい!-1」「しゃ
べるなら出ていきなさい-17」「一人で席離すぞ-1」「何をしゃべっているんだ?二人離れて座れ-1」

<婉曲的な指示(39)>

●授業にふさわしい態度をとろう(1)

「最近授業に集中出来ないでいる人がいますね、注意しましょう-1」

●先生も話への参加を試みる(17)

「何話してるの?先生にも教えてくれる-2」「きみえちゃん、どんなおもしろいこと話しているの?教えて-1」「先生としゃ
べろう-1」「先生も話しに入れてくれ-1」「何の話をしてるのかな-11」「ふ~ん、それでどうしたの-1」

●しゃべりたいことがあればみんなにも聞かせて(6)

「何のお話?あとで休み時間に先生も仲間に入れて。それで話そう!-1」「何の話だ。皆にも聞かせてやれ-2」「何かしゃべ
りたいことがあるんだったら、前に出てきてみんなの前でしゃべってみなさい-1」「きみえが何か意見があるみたいなので発
表してもらおう-1」「どうしてもしゃべりたいのなら前に出てしゃべりなさい-1」

●授業に関係のある話ならば…(4)

「質問なら大きな声でしてね-1」「何か急用でもありましたか-1」「きみえさん何の話ですか-1」「何か質問でもあるのか-1」

●授業に関連のある話題をふる(3)

「(黒板に数字で書いたものを手で隠し)きみえ、今先生が書いた数字言ってみろ-1」「きみえちゃん、この問題はどうか?-1」
「いまだんなことを言っているかわかるか?-1」

●「先生の代わりに授業をやって-2」

●『自分が黙る-2』

●「先生の授業はおもしろくないかな-1」

●「みんな注目~-1」

●「きみえちゃん、きみえちゃん-1」

●「仲がいいね-1」

<譲歩(6)>

●しゃべる機会は許すが…(6)

「この授業が好きな子もいるんだから、筆談をして迷惑をかけないようにしなさい-1」「もう少し小さな声で話して。みんな
の邪魔になるから-1」「他の人の迷惑にならないように話しなさい-2」「おしゃべりをしたいのなら3分あげるからしゃべ
るときな、それ以降は静かにしなよ-1」「話はいいが後ろは向くなよ-1」

<軽蔑・呆れ(1)>

●「また、おしゃべり娘か!-1」

<不介入(1)>

●『ほっておく-1』

問題場面の児童に対する教師による言葉かけの分類

Table 3-4 「言葉かけカテゴリー」に基づく回答の再分類（場面【D教師への直接的反抗】：有効回答270）

<p><指示 (153)></p> <p>●休み時間にやりなさい (151)</p> <p>「じゃあ宿題をやるはずの時間は何をしていたのかな-1」「じゃあ宿題をやるはずの時間は宿題をしなけりゃいけなかったんじゃ-1」「じゃあお前は宿題をする時間に宿題をしなきゃいけなかったんじゃないのか-1」「宿題をやらなくちゃいけないときに君は何をしてたのかな-1」「でも家でやらなきゃいけないことをしてないんやからいまやらんとかんのとちがう?-1」「宿題は家できちんとしてくるもの。それをしないのはお前がルールを破っているんだ。だからしなさい-1」「宿題は家で決められた日までにやっておくものだろう、それが守れない人に『休みは休み』とは言わせない-1」「休みが休みためのものなら宿題は家でするためのものだよ-3」「本来宿題をするべき時間に休んだんだから、そのぶんの休み時間はなし-6」「でもかつひろ君は忘れてきたんだよ、その分、家で休んでたんだからがんばってやろうね-1」「宿題をやってこなかったのが悪い-35」「自分がしてこないからこうなんだ-1」「宿題を忘れたんだから仕方ないでしょう-12」「だったらきちんと宿題をやてきなさい-2」「宿題をやってこなかった罰です-3」「休み時間はきちんと宿題をやった子にあるの-4」「おのれに休む権利はないんじゃ-1」「宿題もやっていないのにどうして休んでもいいんだい?-1」「本当は休むためにあるんだけど、君みたいに宿題をしなさいはしょうがないの-1」「宿題がやればの話だ-1」「休みたければ、ちゃんと宿題してこい-1」「宿題を忘れてくる人に休み時間はありません-3」「宿題していないかったら休み時間はなし-1」「課題が仕上がってれば何もそんなことは言わないよ-1」「宿題ができるまでは休み時間はないと思え-1」「宿題が終わるまで帰させないよ-3」「宿題忘れたんだから今のうちにやっついて-2」「宿題を忘れてきたのだから休み時間にしてね-1」「休み時間に全部やりなさい-1」「いつも忘れてるんだからたまには休まなくていいだろう-1」「遅れていくから（授業でこまるから）休み時間でもやりなさい-2」「そんな関係ないよ-1」「お前は休みすぎだ、今すぐやりなさい-1」「君は授業中にしっかり休んでるんでしょ-1」「授業中ふざけて休んでいるようなものだから、休み時間はなしだ-1」「お前はずっと休んでるじゃないか！やることはやれ-1」「文句を言わずにやりなさい-16」「いいからやりなさい-1」「はやくしろ！-1」「やれ-1」「そうやね、でも自分のためよ-1」「そうねえ、でもねえ-1」「そうだけど、やることをやらなきゃ休みときに休めないんだよ-1」「そうよ、でもやることはやらないといけないよ、分かる?-1」「それもそうだ、でもかつひろは宿題をしてこなかったのだから-1」「そうだけど、宿題やってなかったらやらないと-1」「たしかにそうだけれど、いつかはやらなきゃいけないのよ-1」「それもそうやけど、宿題はちゃんとしやなあかんやろ-1」「そう言わずに頑張ってやれさ-1」「しんどいと思うけれど、がまんしよう-2」「人生楽ありゃ苦もあるさってことだ、しっかりやれよ-1」「宿題がすんだら休んでいいから-6」「宿題が終わったらね-1」「かつひろくん、宿題はみんな嫌だけれど、我慢してやってくるんだよ。だからかつひろ君もがんばろうね-1」「みんなが家で宿題をやっているときに休んだのだから休み時間にやった方が-10」「みんな家でやってくるのよ-2」</p> <p>●休み時間に宿題を要請していけないわけではない (2)</p> <p>「そうだけど、休み時間に宿題してもいいんだよ-1」「休み時間も勉強のうちだよ-1」</p> <p><忠告・意見 (3)></p> <p>●宿題は忘れずにやろう (3)</p> <p>「言われたことはきちんとやろうね-1」「そうねえ、休むためかもしれないけれど、宿題もちゃんとしようね-1」「とにかく、宿題は忘れずにやてきなさい-1」</p> <p><罵り (20)></p> <p>●反抗的態度に対して怒る (19)</p> <p>「バカー、それをへりくつと言うんだ-1」「宿題もしてこない奴がつべこべ言うな-4」「やることしっかりやってからそういう生意気なことを言いなさい-1」「へりくつをこねるんじゃない-1」「あほなことを言っとるな-1」「先生の言うことが聞けないのか-2」「私の言うことが聞けないんですか、もういいです、家に帰らなさい-1」「甘たれるな～！：だまれ：なめとんかコラ！-3」「バカ野郎-1」「宿題をやってこなかったくせに何を言ってるんだ-4」</p> <p>●宿題を忘れた理由を聞く (1)</p> <p>「じゃあどうして家でやってこなかったんや、先生が納得できるような答えを言うてみろ、とことん聞いたるわ、え～どうなんや-1」</p> <p><罰 (8)></p> <p>●やらないならば～するぞ (7)</p> <p>「じゃあ罰を与えます-1」「ちゃんとやらないと、宿題増やすよ-2」「宿題さばりの罰とどっちの罰がいいの?-1」「宿題してこない君が悪い。ちゃんとしないと何か罰を与えるよ-1」「お母さんに連絡してきちんと宿題をするように言います-1」「宿題をやってこなかったかつひろが悪いんだ。じゃあ、みんなの前でかつひろに全部といもらうからな-1」</p> <p>●反抗的態度に対して怒る (1)</p> <p>「職員室に來い！-1」</p> <p><協力 (6)></p> <p>●休み時間にやりなさい (6)</p> <p>「先生といっしょにしようか：先生も教えてあげるから：先生も見てるから-6」</p> <p><譲歩 (74)></p> <p>●休み時間にやりなさい (2)</p> <p>「それじゃあ、半分の時間休んで、残りの時間でできるだけやろうか-1」「休みながら宿題やれば-1」</p> <p>●その日の休み時間以外にしよう要求 (47)</p> <p>「明日までにやてきなさい。できなかつたら明日は居残りね。それとも今日居残りする?-1」「明日までにやてこなかったら、明日は休み時間にしてもらうから-3」「それなら家に帰って（明日までに）やってくるか?-7」「それなら家で（明日までに）やてきて-27」「それじゃあ、今日に昨日の分もやておきなさい-1」「じゃあ放課後にするか-3」「休み時間にするのがいやなら放課後居残りしてろ-4」「じゃあ今からする?-1」</p> <p>●言い分を考慮する姿勢 (14)</p> <p>「全くそのとおり：それもそうだ-4」「たまにはいいこと言うなあ-1」「そうだね、どうしようね～-1」「じゃあ宿題はいつやるの?-8」</p> <p>●宿題をやるように強制しない (11)</p> <p>「宿題やらなくていいわ-1」「じゃあ休みなさい-2」「次からは気をつけてね-1」「仕方ないな～-1」「今度は忘れないように-6」</p> <p><簡単な語りかけ (1)></p> <p>●「ちゃんと復習しとけよ、テストに出るぞ～-1」</p> <p><問いかけ (1)></p> <p>●宿題を忘れた理由を聞く</p> <p>「何か宿題を忘れるようなことがあったの?-1」</p> <p><判断の委ね (4)></p> <p>●宿題をやるように強制しない (4)</p> <p>「自分が正しいと思う方をしなさい-1」「勝手にしなさい：好きにしなさい-3」</p>

Table 3-5 「言葉かけカテゴリー」に基づく回答の再分類（場面【E 怠慢な清掃活動】：有効回答263）

<指示 (219)>

●掃除をしよう (160)

「しゃべりながらでもいいからきちんと手を動かしな-2」「頼むから掃除をしてくれ-1」「少しでもやってくれる?-1」「三人ばらばらになって掃除しなさい-3」「早く終わらせようね：早く終わらせてしまいなさい-6」「掃除ぐらいさっさとやっしまいなさい。一日中やるわけじゃないんだから-1」「どうしたの、さっさと終わらせてのこりで話したら?しっかりやろうよ-1」「おまえはまだわからんか?さっさと掃除しろ!-1」「どうしてさっさとやらないんだ?手際よくやりなさい!-1」「ほら、さっさとすませましょ-1」「もっと楽しくしよう-1」「もっと楽しく掃除して-1」「しっかり掃除しなさい-51」「どうせ掃除をするのなら、もっときちんとやりなさい-2」「ほら、手を動かして-5」「(三人を離して) さっさと掃除しろ!-1」「他に何がやりたいの。でもきちんとしないとね-1」「さあさあ、口よりも手を動かしましょね-1」「もう少し身を入れてね-1」「もっとやる気を出しなさい-1」「おいおいきかないよ、ここ。掃除はちゃんとせんとあ-1」「言われたことはちゃんとしようじゃないか、君たち-1」「もう少し力を入れろ、きれいにならないじゃないか-1」「どうして君たちは一生懸命やらないんだ!しっかりやれ!-1」「もうちょっと一生懸命やれない?-1」「おいてめえ、ちゃんとやらんか-1」「きちんと集中してやれ-1」「オラオラ、しっかりやらんかい-1」「何だその態度は、きちんとやれ-1」「ほら、さっきも言ったでしょ。集中して掃除して!-1」「ちゃんとやれ、やる気はあるのか-1」「何か不服か?きちんと掃除をしろ!-1」「もう少し頑張れ:しっかり頑張ってね:あと少しだから頑張って-8」「そう嫌そうな顔をしないで、頑張ってくれよ-1」「あと少しよ!-1」「おしゃべりもいいけど、やるときはやろう-3」「やるときはやれよ-1」「今は掃除をする時間だぞ-4」「掃除の時間なのだからちゃんと-1」「掃除の時間はきちんと掃除しような-1」「自分たちで汚したのだから、掃除するのは当然だ-1」「もっとちゃんと掃除しなさい-1」「頑張って-1」「自分の学校は自分たちできれいにしようね-1」「みんなが汚したんだからみんなで掃除はしよう-1」「きれいなところにいる方がいいでしょ?だったらちゃんと掃除しなさい-1」「自分たちが使う教室はきれいな方がいいと思わない?思うのだったら話してもいいから手を動かそうね-1」「お前たち、掃除は学校をきれいにするためにするんやぞ。自分の家は掃除するだろう?それと同じことだ-1」「自分たちの教室だろ-2」「あなたたちの教室でしょ-1」「自分たちの生活する場所を掃除するのは当たり前なんだぞ-2」「みんな使ってる場所なんだから、みんなできれいにしよう-4」「自分の使う場所ぐらい自分で掃除しなさい-1」「教室が汚いの嫌でしょ-3」「掃除したくない気持ちは分かるけど、きれいになったら気持ちがいいでしょ-1」「きれいにしないと気持ちよく授業できないよ-1」「掃除をちゃんとすればきれいになって気持ちがいいでしょ-1」「汚い部屋にみんないたくないんだからきれいにしようよ-1」「みんな一生懸命頑張ってるんだから君たちもきちんとやりなさい-5」「嫌なのはみんな一緒です-2」「みんなやらなあかんでちゃんとやろな-1」「誰かがやらねばならないだよ、不運だね-1」「一生懸命やろう。この当番の子がきれいにするものよ。みんな自分があつたところを頑張るのは大切だよ-1」「お前たちが当番なんだから、さっさと掃除しなさい!-1」「あなたたちは何を考えているんですか、掃除は義務でしょう-1」「今は何をする時間かな-1」「掃除の時間も授業中ですよ-1」「今からきちんとやっかとんと大掃除の時めんどろうだよ-1」「掃除をすると心もきれいになりますよ-1」「良いお母さんになれないよ-3」「掃除の極意を授ける-1」

●掃除への不十分な取り組みについて指摘 (20)

「こら、しゃべってないで掃除しろ-1」「誰がしゃべれと言った-1」「お話は後からでもできるでしょ-1」「お話しするのはちょっとガマンしような-1」「話を咲かせたいだろうけど少し中断しましょね-1」「掃除が終わってから話しなさい:話は放課後にしなさい-6」「やるべきことをやってから、好きなことをしなさい-1」「ささっとやっちゃってから遊んだ方が気が楽になるよ-1」「早く終わったら遊んでいいから-1」「身を入れてやったら、早くすんで早く話せるよ-1」「だめじゃないか、さぼらない-1」「気合いで掃除しろ、さぼるなよ-1」「ぐずぐずしてるんじゃない-1」「そこ、もたもたしない-1」「ほうきを持っているだけではきれいにならないよ-1」

●きれいになるまで終わらせないぞ (20)

「きれいになるまで、終わらせないぞ:掃さないぞ:何時間でも残すぞ-9」「ささっとしないと帰れなくなるよ-3」「しっかりやらないと、残ってやらせるぞ-4」「ここがきれいになるまでず〜と掃除してなさい-1」「きれいにするまで掃除終わらんぞ-1」「先生がいいと言うまで掃除していなさい-1」「ここがきれいにならないと終われないよ-1」

●何、どうして、の問いかけ (13)

「どうしたの?何かあったの-3」「何か相談事があるのか-2」「どしたの?何かあったん?-1」「あまり身が入ってないけど、どうかしたのか-1」「どうしてそんなに身が入らないんだ、何か言いたいことがあるのか-1」「どうしてやりたくないの?何か嫌なのかな?-1」「どうしてやらないんだ-1」「何や、掃除するの嫌いか?-1」「何だその態度は?掃除をする気がないのか?-1」「おい、何をしている-1」

●やり方次第で早く終わるから (4)

「早くすれば早く終わるよ-3」「みんな協力すれば早く終わるよ-1」

●「やってっか?-1」

●「ある程度きれいになったら終わっていいよ-1」

<罵り (4)>

●『やるきがないなら〜!』と一喝 (4)

「君らやる気がないんやったら、そこに立ってみんなが掃除するのを見ていなさい。何もしやんでええ-1」「やる気がないのなら、そのままずっとしゃべってなさい-1」「掃除をせんと、お前らの存在も掃除してしまうぞコラ-1」「掃除をしないうら使うな-1」

<罰 (3)>

●『やるきがないなら〜!』と一喝 (3)

「やる気がないんだら(お前がそのつもりだったら) グランド十周してこい-2」「その二人授業が終わるまで廊下に立ってなさい-1」

<婉曲的な指示 (4)>

●敢えて怠慢様子につきあおうとする (2)

「一緒に遊ぼうぜ-1」「何の話?先生も入れてくれよ-1」

●「掃除できたら一緒に遊ぼうか-1」

●「先生はきれい好きな子が好きだなあ-1」

<協力 (17)>

●掃除をしよう (17)

「先生もいっしょにするから、ちゃんと掃除をやろましょ-15」「ほら、いっしょにやろう-1」「先生とどれだけ多くごみを集められるか競争よ。1対3だからまさか負けたりしないわよね-1」

<現状肯定 (4)>

●現状を肯定する (4)

「それでよろしい-1」「うまいねえ-1」「まあいいや-1」「みんな好きでやってるんじゃないものね、仕方ないわ-1」

<軽蔑・呆れ (4)>

●掃除をきちんとできない様子を嘆くように (3)

…「掃除もきちんとできないのか-1」「それぐらいできるでしょう-1」「気のない子らやね〜-1」

●「言っている意味が分からないの?-1」

<不介入 (8)>

●『何も言わない-8』

問題場面の児童に対する教師による言葉かけの分類

Table 3-6 「言葉かけカテゴリー」に基づく回答の再分類（場面【Fけんか】：有効回答266）

<指示 (225)>

●三者による話し合いの機会を設定 (100)

「やめなさい！二人とも前に来なさい-1」「けんかするな、こっちへこい-1」「二人ともあとで職員室に来なさい-6」「はい、おわり。あとで私のところへ来なさい-1」「どうしてけんかになったのか、理由を言ってみなさい-39」「一体何があったのか先生に話して-8」「二人ともこちらに来て、先生に一人ずつわけを話しなさい-1」「けんかをやめて、まず二人の意見を先生が聞くから-1」「やめなさい、どっちが悪いの-2」「どうしたの、何があったんだ-12」「落ちついてちょうだい、ちゃんと席に戻って話してくれるかしら-1」「いったいどうしたの？-21」「こっちへ来て先生の話を受け-1」「とりあえず話をするから-1」「お互いの話を聞いてあげるからとにかくけんかはやめましょうね-1」「まあ落ちついて話し合いましょう-1」「どうしてけんかになったか、誰か説明して-2」

●とにかくやめさせる (92)

「やめなさい-69」「おとなしく席について-10」「とりあえず退け！-1」「ちょっとやめなさい。理由は何であれ、暴力はやめなさい-1」「とりあえず落ちつきなさい-5」「ちょっとちょっと、ちょっとだけ待ってごらんなさい-2」「けんかはやめて仲直りしましょう-2」「何も言わず力づくでけんかをやめさせる-2」

●けんかは良くないと指摘 (24)

「暴力はいけないよ-4」「人を殴るのはだめだ：人に手をあげちゃだめだ-3」「けんかはよくないでしょ-3」「けんかはダメだよ-3」「二人ともケガするからやめなさい-1」「たかしくん、殴られたら痛いでしょ。殴られたくないよね、やめようね-1」「ものはこわさないでね-1」「やめなさい、ほこりが立つよ-1」「ここは教室だ。みんなの迷惑を考えろ-2」「やめなさい、何してるの。教室の中で暴れてはいけませんよ-1」「仲良くするのが友達でしょ-1」「けんか両成敗だから、二人とも反省しなさい-3」

●特にけんかを批判しない (2)

「けんかは先生が許可をだしてからにしなさい-1」「今は授業中だからあとにしなさい-1」

●静かにしなさい (5)

「静かにしなさい-4」「うるさい、何やとるんだ～だまれ～-1」

●双方どうしの話し合いを通じて解決をうながす (2)

「落ちついて、二人とも離れたところに行って、なぜそうなったか言い合いなさい-1」「あなた達は動物じゃないでしょ、口で解決しなさい-1」

<罵り (16)>

●バカ、コラッ (16)

「このバカ：やめろバカ-3」「コラッ！-1」「誰の授業で暴れとんねん、いわすぞコラ-1」「こらっ、何してるんだ-11」

<罰 (9)>

●罰を示す (9)

「そういうことをする奴は出て行け！-3」「廊下に立っとれ！-2」「こら、二人ともちょっと外へ出ろ-1」「止めろ、二人とも後ろに正座している-1」「いますぐ止めないと停学にします-1」「ビシッ（たたく）-1」

<現状肯定 (15)>

●特にけんかを批判しない (15)

「やりたいたけやいなさい-4」「気がすむまでけんかしなさい、そのあと話を聞きますよ-1」「いつまでも勝手にしてないさ、みんな席について-1」「気がすむまでやって、先生に何があったか教えてな-1」「けんかをするなら外でやいなさい-7」「けんかをするのなら、教室じゃなくて外でしておいで。私も行くよ-1」

<静観 (1)>

●『見てる-1』

Table 3-7 「言葉かけカテゴリー」に基づく回答の再分類（場面【G 依存児】：有効回答268）

＜指示 (61)＞

●独力で探すことを要求 (60)

「いつも先生ばかり頼って、いつなくしたのかよく思い出して-1」「お前はいい加減に先生ばかりに頼るな。自分のものは自分で探せ-1」「お前は人に頼りすぎとる。もう少し自分で努力しろ-1」「自分で探さない：自分のことは自分でしなさい-36」「もう一度探してみなさい：もう一度探してみてごらん-14」「お前、いつもやないか、自分で探せ-1」「もう一回探してみなさい。それから来なさい-5」「自分で探してから来なさい-1」

●ものをなくしやすい理由を考えさせる (1)

「なくした理由を自分で考えろ！-1」

＜忠告・意見 (23)＞

●持ち物の自己管理を要求 (21)

「自分のものは自分で管理しておきなさい-13」「自分のものには（自分でなくしたことは）、自分で責任を持ちなさい-2」「ちゃんと身のまわりの整頓をしようね-1」「今度からはなくさないようにするよ-2」「自分のものはきちんとしておかないてはダメでしょ-1」「自分のものでしょう？きちんとしなきゃだめでしょう-1」「なくしてもよいように自分の名前を書こうね-1」

●ものをなくしやすい理由を考えさせる (1)

「ともちゃんはよく自分のものをなくすね、どうしてこうなるかちょっと考えないとダメかな？-1」

●なくしものをするを批判 (1)

「あなたはしょっちゅう何かをなくしますね、ちゃんと注意していなさい-1」

＜婉曲的な指示 (11)＞

●自分でいろいろ探したの？ (11)

「きちんと自分で探した？-9」「自分のまわりを見てみた？-1」「自分のまわりを探したの？-1」

＜協力 (141)＞

●一緒に探すということを提案 (87)

「先生も一緒に探そう-67」「今日もあの辺にありそうね。一緒に探そうか-1」「先生も一緒に探すわ。大丈夫、きっと見つかるから-1」「先生も一緒に探してあげる-1」「またお前か、おっちょこちょいなんだから、いっしょにさがしてやるよ-1」「先生もよくなくすんだよ、一緒に探そう-2」「探そか-1」「どこに置いたかもう一度そこを一緒に見てみようか？-1」「先生も一緒に探してあげるから落ちついて-3」「先生も探すから、みんなも一緒に探してあげて-1」「一緒に探してあげるけど、自分のものは自分で管理しましょう-2」「もう一回ちゃんと探してみな。先生も探すで。今度から気をつけんといかんのやで-1」「よく探しにいこう。見つかったらもうなくさないように-1」「よ～し、先生にまかしとけ！-1」「先生が探しておきます-2」「今までどこに行ったのか教えて。探してきてあげるよ-1」

●なくした帽子の手がかりを問う (51)

「どこでなくしたの？：最後にどこに置いてたの？：最後にどこで持ってたの？：いつから無いの？-41」「じゃあ、よく帽子のことについて考えてみようか-1」「どんな帽子？覚えていることは？名前は書いてあるの？-2」「思い当たることはないの？-1」「どこかに忘れた覚えはないのですか。見つけたら知らせるよ-1」「今日は何して遊んだ？-1」「今までどこで何していたのか思い出してごらん-1」「まあ大変ね。まずもう一度自分でよく考えてみようよ。どこに置いたの-1」「え？今度はどんな帽子？どこにやったの？-1」「困ったわね、覚えてないの？-1」

●クラスメートにたずねる (3)

「(いろいろたずねてから) じゃあみんなに聞いてみよう-2」「みんな、ともこさんの帽子がないんですって！誰か知りませんか-1」

＜軽蔑・呆れ (27)＞

●なくしものをするを批判 (26)

「いつもなくしてばかりだな-2」「何であなたは何回も何回もよくなくすの-1」「何回なくしたら気がすむんや-1」「またか、何回も同じことをするな-1」「またか！お前はなんてだらしないんだ-1」「またなくしたのか、気をつけないからだ-1」「またお前か、自分が不注意だからなくすんだ-1」「またなくしたんか-6」「またか、お前はいつもものをなくすなあ-1」「またか、いったいいつになったらきちんとするんだ-1」「またか、いい加減にしなさい-1」「何ですぐものをなくすんだ、きっと天罰が与えられたんだ！-1」「どうしてあなたはものをなくすんだらうね-4」「なくすのが悪い-2」「自分でなくしたのだろ、それは自業自得だ-1」「まったくおまえは…-1」

●持ち物の自己管理を要求 (1)

「そんなもの知るか-1」

＜簡単な応答 (5)＞

●「あら、帽子なくしたの？-2」

●「本当に持ってきたの？-1」

●「そうか、こまったね-1」

●「どこにいったんかなあ-1」

問題場面の児童に対する教師による言葉かけの分類

Table 3-8 「言葉かけカテゴリー」に基づく回答の再分類（場面【H孤立児】：有効回答275）

<指示 (89)>

●クラスメートと外で遊ぶことをすすめる (89)

「遊んでこい、子どもは風の子だ、さあ早く-1」「お前教室にばかりいると体がなまって貧弱な体になるぞ-1」「外に行ってみてはどうか？-2」「外に遊びに行ったらどうだ？-2」「お前はいつもボケーとしてるけど、たまには外で遊ぶとか体でも動かしたらどうなんや-1」「自分から声をかけないと、友達は出来ないぞ-6」「君が話しかけたら、みんなも話してくれるんじゃないかな-1」「じゅんこは外で遊ぶの好き？好きならみんなに声をかけてみようよ-1」「自分からいかなきゃ誰もあなたに気づかない-1」「みんなと遊びたいのなら自分から行動しろよ-1」「みんなと遊びたいの？仲間に入ってくる？-1」「もっと社交的になれや！成長せんぞ-1」「一人でそんなところにいるんじゃない-1」「みんなと仲良くしなさい-2」「毎日一人であつまらなくないのか？外へ出て遊んでこい！-1」「外に出て、みんなと遊んできなさい-44」「仲間に入れてもらってきたら-6」「思い切って自分からみんなの所に行って声をかけてみなさい-3」「一人でいないでみんなと遊んだら？-9」「友達と遊ぶの嫌い？遊んでみたら？-1」「じゅんこ、せっかくの昼休み、教室にいるのもいいけど、外でみんなと遊んでみないか-1」「お前もみんなの所へ行ってきたらどうだ？-1」「みんなと遊ぼうね-1」

<忠告・意見 (4)>

●クラスメートと外で遊ぶことをすすめる (4)

「じゅんこちゃんはみんなと外で遊ばないの？みんなと遊んだ方が楽しいと思うよ-1」「外で遊ぶの楽しいよ-1」「みんなと遊ぶのも楽しいぞ-2」

<簡単な語りかけ (1)>

●「一人でいるのが好きなんだね-1」

<問いかけ (80)>

●じゅんこの様子を気にかけて質問 (80)

「どうした？-2」「具合が悪いの？-2」「元気がないねえ、どうした？-1」「何か考えてるの？-1」「じゅんこちゃん、どうしたの？-3」「何してるの？-7」「何かいやなことでもあったの-1」「みんなと遊べない理由があるのか-2」「どうして見ていただけなの？遊びたくないの？-1」「どうしてみんなと一緒に遊ばないんだい。よかったら話してくれないか-1」「どうしてみんなに話しかけないの-1」「どうしてみんなと一緒に遊ばないの-11」「どうしていつも一人なんだ？どうしてみんなとだけけちもうとしないんだ？-1」「何で外で遊ばないのか？何で外へ行かないのか？-3」「どうしたのか、みんなと仲が悪いのか-1」「みんな誘ってくれないの？-1」「じゅんこちゃん、みんなにいじわるされているの？-1」「いつも一人だな、友達はいないの？-2」「みんなと一緒に外で遊ばないの？-30」「みんなと遊んだりしないの？一人じゃさみしくない？-1」「じゅんこちゃん、楽しい？みんなと遊ばないの？-1」「じゅんこちゃん、外に行かないの？みんなといるのが楽しくないのかな？-1」「一緒に遊ばないの？一人でいるのも楽しいけどね-1」「みんなと遊びたいの？-1」「外に出て一緒に遊ぼうと思わないのか？-1」「今日は遊ばないの？-1」「みんなと遊びたいんでしょ？-1」

<現状肯定 (1)>

●「別に無理に遊ばなくてもいいんだよ-1」

<不介入 (8)>

●『声をかけない-8』

<配慮 (92)>

●じゅんことともに活動しようとする (65)

「先生と一緒に遊ぼうか：遊びに行こうか：みんなと遊ぼう-49」「天気がいいねえ、何して遊ぶ？-1」「一緒に遊びに行くぞ-1」「まず先生と仲良くなろう-1」「先生とあやとりしよう-1」「先生と一緒にお話ししようか？-6」「先生と何かする？-1」「先生と一緒に遊んであげる-2」「先生の仕事を手伝ってくれない？-3」

●外についての話題をきっかけに話しかける (24)

「何かおもしろいものが見える？-5」「何してるの：何が見えるの-5」「見てるのって楽しい？-2」「じゅんこちゃんは、外で見てるのが好きなのかな-1」「こうやって見ていると、みんなの姿がよく見えておもしろいな-1」「先生も昔はこうやって窓の外を眺めるのが好きだった-2」「外は気持ちいいよ-2」「じゅんこちゃん、今日もいい天気やね-1」「天気がいいから、みんな外で遊んでいるね-1」「いい天気だね-2」「うわ-外あつそうやなあ、窓のところにも涼しくないやろ-1」「今日はいい天気だね、みんな楽しそうだね-1」

●日常生活の話題をきっかけに話しかける (3)

「給食おいしかった？-1」「じゅんこちゃん、昨日のテレビおもしろかったねえ。お家ではいつもどんなことしてるの？-1」「いつも家に帰って何して遊んでるの-1」

Table 3-9 「言葉かけカテゴリー」に基づく回答の再分類（場面【I 危険を伴うふざけあい】：有効回答279）

<指示 (243)>

●窓枠から降りることを指示 (176)

「危ないから降りなさい-56」「落ちたらケガするから降りなさい-3」「危ないからやめなさい：座るんじゃない-34」「落ちたら痛いよ～今のうちにやめとこうよ-1」「君、そこはあぶないよ。落ちたら死んじゃうから降りようね-1」「こら、そこ！何やってんだ。ここが何階だと思ってるんだ！すぐ降りろ-1」「こらあ～お前は死にたいのか、早くそこから降りろ-1」「どうしてそんなところに腰かけてるの。あぶないでは-1」「ここは危ないから外で遊びなさい-13」「落ちるぞ、外へ行け、外へ行って遊べ-1」「そこじゃ危ないから外で遊んできなさい-1」「どこに座るとるんや、違うところで遊べ-1」「危ないから降りてから話しなさい-1」「降りて窓を閉めてから遊ぶか、ここから離れて遊ばなきゃダメだよ-1」「みんな、そこは遊ぶところじゃないから外で遊んできなさい-1」「ほらほら、そんなことしないで、あちらへ行きなさい-1」「みんな外で遊んどるやん、一緒に入れてもらっておいな-1」「何しとる、外へ行け-1」「窓に座るのは危ないよ。降りて、騒ぐなら校庭にしなさい-1」「気をつけてね。でもそこ、先生の特等席だからとっちゃダメよ-1」「落ちたらどうするの。早く降りなさい。二度としてはいけませんよ-1」「おいおい、間違っても落ちたりするなよ。座りたいなら俺がここに椅子を持ってきてやるから終わったら返しとけよ-1」

「まもる、座りたいのなら椅子か床にしなさい-1」「何をしているの？周りのみんなもちゃんと止めなきゃ-1」「何を考えてるんだ。危ないだろ。他の二人もやめさせなかったのか-1」「危ないから降りなさい。みんなも、そんなところでふざけないの-3」「こら～！窓から落ちたらどうするんだ。早く降りてその二人も静かにしなさい-1」「降りろ：降りなさい-11」「何やってるの、降りろ-10」「そこに腰かけてはダメでしょ？早く降りなさい-1」「やめなさい、ケガしたらどうするの-1」「やめなさい-4」「窓からこっちにおりた方がいいんじゃないかな？-1」「降りた方がいいんじゃない？-1」「落ちないように気をつけてね。でもそこから降りた方がいいよ-1」「窓は座るところじゃないでしょ-1」「そこは座るところじゃないよね-2」「そんなところに腰かけるな-1」「窓枠に腰かけるのはやめなさい-1」「落ちないと思ってても落ちることがあるのよ。そうなる前に降りなさい-1」「まもる君が大丈夫と思っても周りの子から押されて落ちることもあるんだからやめようね-1」「やめろ、ガラスが割れるじゃないか、早くやめろ！-1」「こんな所で、ふざけあうな-3」「危ないところでふざけちゃだめよ-1」「悪ふざけはやめないか-1」「こら！こんな所で遊んでるんじゃない！-1」「廊下でふざけてはいけない-1」

●落ちたら大変な目にあうことを強調 (33)

「そんなところに座るんじゃない、落ちてケガするぞ-2」「気をつけないとケガするよ-1」「さあ、そんなところにいるとケガしちゃうよ-1」「そんなところに座ってたら落ちて危ないよ。そこから落ちたら骨を折ってすごくないよ-1」「落ちたら死んじゃうんだよ-5」「そんなところに座らない。もし落ちたら天国に直行するぞ-1」「こ～ら、まもる君。そんなところに腰かけてたら、落ちて死んじゃうぞ！-1」「落ちたらどうするの-11」「話が楽しいだろうけど、もしも下に落ちたらということを考えなさい-1」「死んだらどうするの-1」「もし落ちたらどうなると思う？-1」「まもる君、たしかにここは眺めがいいよね。でもあなたが死んでしまったりケガをしてしまったら、お父さんやお母さんが悲しむよ-1」「死んでも知らないよ-1」「昔、君みたいに窓に座ってて下に落ちた子がいるんだけど-2」「死にたいのか-3」

●危険であることを呼びかける (33)

「危ない、落ちるよ-2」「落ちるよ-5」「危ないよ-15」「何やってるんだ！危ないだろう-1」「そんなところに座っていたら危ないよ-3」「窓で遊んでいると危ないよ-1」「そんなことしてると落ちるやろ-4」「そんなところでふざけてたら危ないだろう-1」「そんなところにいると、落ちるぞ-1」

●どこで何してるんだ (1)

「どこで遊んどるんだ！-1」

<忠告・意見 (15)>

●落ちないように気をつけなさい (15)

「気をつけて遊んでね-1」「危ないぞ、落ちるなよ-1」「楽しそうだな～でも窓から落ちるなよ-1」「落ちるなよ：落ちこちるんじゃないぞ-4」「おーい、気をつけろよ、じゃあね～-1」「ケガするなよ～-1」「危ないよ気をつけなさい：落ちないように気をつけなさい-5」「落ちないようにしないと危ないよ-1」

<罵り (6)>

●どこで何してるんだ (6)

「コラー、何を考えてんだ-6」

<罰 (2)>

●窓枠から降りることを指示 (1)

「何しとんのや、そこに正座しとれ-1」

●「こら～お前、あとで職員室に來い-1」

<婉曲的な指示 (8)>

●落ちたら大変な目にあうことを強調 (1)

「ワレ、そんな高いところ好きなんか？(と、落とすふり)-1」

●先生自身の冷や冷やする思いを伝える (2)

「先生もう冷や冷やするわ-1」「きゃ～死んじゃう！-1」

●落ちたら自分の責任だぞ (3)

「まもる、落ちたら自分が悪いんだぞ。先生は知らんからな-1」「もし落ちたら自分たちで責任をとりなさい-1」「お尻痛くない？落ちないようにしろよ。先生は知らんぞ-1」

●「ふざけて落ちたら誰が責任をとると思うんだ-1」

●「落ちろ-1」

<簡単な語りかけ (1)>

●「一緒に遊ば-1」

<軽蔑・呆れ (4)>

●危ないという意識のなさを見下すように指摘 (4)

「危ないでしょ、そんなことも分からないの-2」「全く常識のない！-1」「落ちてからじゃないと分からないの？-1」

問題場面の児童に対する教師による言葉かけの分類

Table 3-10 「言葉かけカテゴリー」に基づく回答の再分類(場面【J 授業を妨げる落ちつきない行為】:有効回答274)

<p><指示(128)></p> <p>●しげゆきへの気づかい(19)</p> <p>「人の失敗を笑ってはいけません-8」「笑うのはやめなさい、自分が笑われたらどういう気持ちになるか考えなさい-1」「笑うな:笑ってるんじゃない-8」「今笑ったもの立て〜-1」「人のことをもっと良く考えなさい-1」</p> <p>●まず静ませることから(78)</p> <p>「静かにしなさい、テストを始めるぞ-18」「静かにしろ、テスト前だぞ-8」「静かにしなさい、テストを始められないでしょう-1」「いつまで笑ってるんだ、始めるぞ-1」「はいはい、もうすぐテストだから静かにして-1」「静かにしなさい。静かにしないとテストが始まらないでしょ-1」「静かにしてこちらを向いて下さい-1」「静かに!:静かにしろ:静かにしなさい:静かにしようね-40」「うるさいぞ-6」「静かにしなさい、騒ぐことじゃないでしょ-1」</p> <p>●しげゆきを注意(31)</p> <p>「早く椅子に座って-2」「早く座りなさい-2」「早く席に着きなさい-10」「おっちょこちょい!早く起きなさい-1」「しげゆき君大丈夫?話を始めるから早く席についてな-1」「やかましい、席に戻れ-1」「しょうがないなあしげゆきは。早くちゃんと座りなさい-1」「ほ〜ら、ちゃんとこしかけないから。はい、座って-1」「きちんと座ろう-10」「しげゆき、ふざけてるから椅子から落ちるんだ!笑われてもしょうがないぞ。テストを始めるぞ。前向いて座れ-1」「静かにしなさい。ふざけてるんじゃない-1」</p> <p><忠告・意見(15)></p> <p>●しげゆきを注意(15)</p> <p>「しげゆき君、ちゃんと前を向いて座っていましたか-1」「どうせだらしなにかっこうをしてたんだろう、自業自得だ-1」「大丈夫?もっとしっかり座っていなきゃ-2」「静かに、しげゆき君、きちんと座っていないからですよ-1」「しげゆき君、元気すぎ!テスト始めますよ-1」「落ちつきがないからそうなるんだ-2」「テストをこれからするというのに、そんな浮ついた心でどうするんだ!-1」「しげゆき君何してるの?気が抜けてるんじゃないの?-1」「何をしている、集中力が足りんだ-1」「ふざけてるんじゃない-3」「こんな時にウケをねらうな-1」</p> <p><罵り(5)></p> <p>●しげゆきを注意(4)</p> <p>「バカやろ〜-1」「コラコラ-1」「何やってるんだ!テスト前だぞ!-1」「どうすればそうなるんだ!-1」</p> <p>●「静かにしろ、そんなんほっとけ-1」</p> <p><罰(3)></p> <p>●しげゆきを注意(3)</p> <p>「しげゆき、お前にテスト受ける資格はない、出ていけ-2」「後でできなさい-1」</p> <p><簡単な語りかけ(1)></p> <p>●「しげゆき君どうしたの?先生ビックリしちゃったよ-1」</p> <p><問いかけ(12)></p> <p>●何やっているんだ(12)</p> <p>「何やってるの?-10」「どうしたの?-2」</p> <p><現状肯定(19)></p> <p>●生じたハプニングをリラックスの場と位置づける(19)</p> <p>「ハハハ-2」「ハハハ、何してるの-1」「おいしいなあ-1」「おもろいやないけ-1」「なかなかいいギャグだったよ-1」「うまいね今のこけ方、お笑い芸人でもめざしているの-1」「ムードメーカーだねえ君は。それではテストを-1」「(一緒に笑って)は〜い、リラックスしたところでテスト始めます。さ、静かにね-1」「(笑いがおさまったら)さて、始めるぞ-2」「しげゆき、気をつける。みんなもこれでリラックスできただろう-1」「みんなの緊張もほぐれたことだし、テストを始めようか-1」「リラックスしたところで始めるぞ-1」「おもしろいけど、テストもしっかりとね-1」「せっかく覚えたものが頭から出ちゃうわよ。みんなもあまり笑っていると忘れるよ-1」「リラックスするのもいいけど、頭の中は大丈夫か?-1」「かっこいいなオイ-1」「何や、ウケねらったんのか-1」</p> <p><軽蔑・呆れ(2)></p> <p>●しげゆきを注意(1)</p> <p>「まったくしょうがないなあ-1」</p> <p>●「いつになったらテストできるのかしら?みんなテストしたくないのかな?でもやるからね-1」</p> <p><不介入(1)></p> <p>●「さて…(テストの話をする)-1」</p> <p><配慮(49)></p> <p>●しげゆきへの気づかい(49)</p> <p>「しげゆき君、大丈夫か?-15」「大丈夫?ケガはなかった-15」「大丈夫?どこかうたなかった?近くの人見てあげて-1」「痛くない?-2」「しげゆき君大丈夫?ちょっと時間おこうか?-1」「ケガはない?-1」「大丈夫か?さあ始めるよ-3」「大丈夫?ではテストを始めるぞ-1」「しげゆき君大丈夫?先生は今から大事な話をするけど聞いてくれるかなあ?-1」「しげゆき君大丈夫?何もなければ始めるけれど-1」「しげゆき君大丈夫?みんなも気をつけるのよ。じゃあテストをしましょう-2」「大丈夫?けがはない?みんなも気をつけてね-1」「しげゆき君大丈夫?先生も昔よく同じことをしたものだよ-1」「おいおい、しげゆき大丈夫か?テストもこけるなよ-1」「ケガはない?痛いところがあるなら保健室へ行きなさい-1」「しげゆき君を起こしてあげて-1」「しげゆき君テスト前で緊張したのかな?みんなもリラックスして受けたらいいよ-1」</p> <p><配慮と指示(39)></p> <p>●しげゆきへの気づかい(39)</p> <p>「大丈夫?みんなは静かにして-20」「しげゆき大丈夫か?椅子に座って。みんなも静かに-1」「静かにして、しげゆき君大丈夫ですね-1」「ケガはないかね。気をつけようね。はい、静かに-1」「はい静かに。しげゆき君おちついて-1」「しげゆき大丈夫?けがはない?テストは受けられそう?みんなちょっと静かに-1」「しげゆき、気をつける。みんなもテスト前だぞ。静かにしなさい-1」「しげゆき君大丈夫?みんな前を向いて下さいね-1」「大丈夫?みんなも笑わないで-12」</p>
--

資 料

Table 4 「言葉かけカテゴリー」に基づいて分類された各回答の割合

	【A】	【B】	【C】	【D】	【E】	【F】	【G】	【H】	【I】	【J】
指 示	48.1	76.2	73.8	56.7	83.3	84.6	22.8	32.4	87.1	46.7
忠告・意見	0.3	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	8.6	1.5	5.4	5.5
罵 り	0.0	0.3	0.0	7.4	1.5	6.0	0.0	0.0	2.2	1.8
罰	3.1	1.3	9.3	3.0	1.1	3.4	0.0	0.0	0.7	1.1
婉曲的な指示	2.1	2.0	14.0	0.0	1.5	0.0	4.1	0.0	2.9	0.0
協 力	0.3	1.3	0.0	2.2	6.5	0.0	52.6	0.0	0.0	0.0
譲 歩	24.7	0.3	2.2	27.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
簡単な語りかけ	4.2	0.7	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	0.4
問 い かけ	8.7	10.7	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	29.1	0.0	4.4
現 状 肯 定	0.0	5.0	0.0	0.0	1.5	5.6	0.0	0.4	0.0	6.9
軽蔑・呆れ	1.7	0.3	0.4	0.0	1.5	0.0	10.1	0.0	1.4	0.7
不 介 入	0.0	0.7	0.4	0.0	3.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.4
励 ま し	2.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
簡 単 な 応 答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0
配 慮	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.5	0.0	17.9
判 断 の 委 ね	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
静 観	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
配 慮 と 指 示	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.2

注：数字は百分率（％）

新たに加え、全18カテゴリーとなった。分類した結果はTable 3のとおりである。なお、各場面ごとに、全回答に占める各カテゴリーへの回答の割合を算出し、言葉かけの傾向を知るための指標とした。この割合についての一覧は、Table 4に示す。

各場面ごとに見られる言葉かけの傾向は、以下に述べるとおりであった。【A】では、12個のカテゴリーへ回答が分類された。そのうち、答えること、あるいは顔を上げることを要求するといった内容である〈指示〉が全体の48.1%を示した。その一方、当てた児童をひとまず座らせるといった形を取る〈譲歩〉が24.7%を示した。その中には、「じゃあ別の人に聞いてみましょう：他の子に聞いてみようか：誰かゆきえさんを助けてあげましょう、分かる人？（15回答）」「じゃあ座っていいよ：分からないか、じゃあ座って：はい、着席（27回答）」といった、反応を全く要求しない言葉かけが14.6%を示した。

【B】では、12個のカテゴリーへ回答が分類された。そのうち、〈指示〉が76.2%を占め、直ちに落書きを止めて課題に取り組ませるといった言葉かけが顕著だった。次いで〈問いかけ〉への回答が10.7%を示し、直ちに何らかの指示を行うわけでないが、問題に取り組んでいない現状を懸念した関わり方と捉えられた。全回答の5.0

%ではあるが、絵に対する関心、少しでも課題を行ったということに対する評価という言葉かけを含んだ〈現状肯定〉が見られた。

【C】では、6個のカテゴリーへ回答が分類された。そのうち、即座におしゃべりをしないよう要求する〈指示〉が73.8%であった。また先生自身が話の参加をわざと試みたり、あえて話の内容をみんなに聞かせるように迫るといった形をとるような〈婉曲的な指示〉が14.0%、外に出ていくように要求したり、立たせるといった〈罰〉が9.3%であった。これらはいずれも授業を妨げるおしゃべりに対しては、直ちにそれを止めさせる言葉かけと見なすことができ、合わせて97%以上に達した。

【D】では、9個のカテゴリーへ回答が分類された。そのうち教師の最初の要求どおりに休み時間に宿題を行わせる〈指示〉が56.7%を示し、語調の強い指示とも位置づけられる〈罵り〉も7.4%見られた。その一方で、児童の言い分を考慮する〈譲歩〉が27.4%を示した。

【E】では、8個のカテゴリーへ回答が分類された。そのうち〈指示〉が83.3%を占め、掃除をきちんと行うように要求する言葉かけが顕著に見られることを示した。次いで、掃除に力を入れてもらうようにするという目的としては〈指示〉と同じであるといえるが、教師が一緒

問題場面の児童に対する教師による言葉かけの分類

になって掃除をすることを提案する〈協力〉が6.5%見られた。

【F】では、5個のカテゴリーへ回答が分類された。そのうち〈指示〉が84.6%を占めた。〈指示〉と位置づけられた言葉かけは、何よりもまずけんかを止めさせるといった内容のものであった。そのうち、止めさせた後の働きかけとして、教師とけんかの当事者たちの計三名で話し合う機会を設定する方向に持っていかうとする言葉かけが、全回答の37.6%まで見られた。次いで、「このバカ：やめろバカ」など、けんかの勢いに負けない形で統制を行おうとする姿勢の現れとも考えられる〈罵り〉が、6.0%を示した。一方、けんかそのものを批判しない〈現状肯定〉が、5.6%見られた。

【G】では、6個のカテゴリーへ回答が分類された。そのうちなくした帽子について一緒に探すことを提案する〈協力〉が52.6%まで見られた。一方これに次いで、独力で探すことを要求したり、ものをなくしやすい理由について考えさせるといった〈指示〉が22.8%、「またなくしたんか(6)」「どうしてあなたはものをなくすんだろうね(4)」といった〈軽蔑・呆れ〉が10.1%、今後自分の持ち物をなくさないようにと注意する〈忠告・意見〉が8.6%を示した。

【H】では、7個のカテゴリーへ回答が分類された。そのうち、話相手になろうとしたり、一緒に遊ぶように誘ったりすることを目的とするように、窓辺に一人でいるじゅんこに気を使って語りかけるといった〈配慮〉が33.5%を示した。次いで、クラスメートと遊ぶことをすすめるといった〈指示〉が32.4%を示した。また、じゅんこが一人でいることを懸念する〈問いかけ〉が29.1%見られた。

【I】では、7個のカテゴリーへ回答が分類された。そのうち直ちに窓枠から降りるように要求するといった〈指示〉が、87.1%を占めた。次いで「危ないよ気をつけなさい：落ちないように気をつけなさい(5)」「落ちるなよ：落ちこちるんじゃないぞ(4)」などの〈忠告・意見〉が5.4%を示した。残りの言葉かけも、危険であることをほのめかすような言葉かけであった。

【J】では、11個のカテゴリーへ回答が分類された。そのうち〈指示〉が46.7%を示したが、指示する対象によって、さらに3つのタイプに分類可能であった。その内訳は、「人の失敗を笑ってはいけません(8)」など、しげゆきを笑った児童への指示が全回答の6.9%、「静かに！：静かにしろ：静かにしなさい：静かにしようね(40)」など、クラス全体を静ませる指示が全回答の28.5%、「早く席に着きなさい(10)」などのように、椅子から転げ落ちたしげゆきへの指示が全回答の11.3%で

あった。次いで転んだしげゆきに対して大丈夫であるかを確認するといった〈配慮〉が17.9%、しげゆきへの配慮とともに、周囲で騒ぎだした児童に指示する〈配慮と指示〉が14.2%を示した。また、教師自らが児童たちの笑いに加わったり、この場をテスト前のリラックスの場と意味づける等の〈現状肯定〉が6.9%、転んだ理由が集中力のなさや座りかたの問題だとして注意する〈忠告・意見〉が5.5%を示した。

考 察

本研究では、学校での特定の場面下で、どのような言葉かけを教師が実践しうるかについてまとめることを目的とした。それにあたり、各々の特徴に基づいて言葉かけを分類するためのカテゴリーを構成し、結果的に18種類のカテゴリーを見出した。

各場面の回答は、18カテゴリー全てに分類されるわけではなく、5～12個のカテゴリーへ分類された。この結果は、特定場面といったコンテキストの要因によって、教師の対処方法には制約が与えられていることを示すと同時に、どのような内容の言葉かけをするかということにおいて、ある程度の多様性がうかがえることを示すものといえるだろう。

多様性がうかがえることを示す典型例として、次の結果に注目できる。各カテゴリーに含まれる回答の内容を判断する限り、児童の行動に対して統制を意図する言葉かけが多数含まれるカテゴリーとして、〈指示〉〈罵り〉〈罰〉〈婉曲的な指示〉などが挙げられるだろう。

【B】【E】【I】においては、これら4個のカテゴリー全てに、【A】【C】【D】【F】【J】では、これらのうち3個のカテゴリーに言葉かけの回答が分類された。こうした結果は、児童の行動を統制する目的を果たすための手段として、多様な言葉かけのタイプがあることを示すものといえる。

ただし、回答される割合という点に着目する限りにおいては、いずれの場面においても〈指示〉に分類される言葉かけの割合がひじょうに高かった。【A】【B】【C】【D】【E】【F】【I】【J】では〈指示〉への回答の割合が最も高く、そのうち5場面において、70%以上の回答が〈指示〉に偏る結果となった。残りの【G】【H】でも、〈指示〉への回答の割合は、〈協力〉あるいは〈配慮〉に次いで2番目に高かった。そのためこの結果に注目する限りでは、現実場面の下での教師には、多様な指導の可能性があるというよりもむしろ、特定のカテゴリーに該当する働きかけをかなり余儀なくされていると考えられるかもしれない。

それでは、〈指示〉へ分類された言葉かけは、すべて

同じ性質を持った働きかけと一括りされうるものなのであろうか。この点をあらためて考えるために、Table 3の〈指示〉へ分類された回答にあらためて注目した。本論ではひとまず、〈指示〉への回答としては最大数である7つの見出しを含む【E】の回答について着目してことにした。その中で、ひとつ注目すべきは、7つの見出しのうちの、〈●きれいになるまで終わらせないぞ〉に含まれる言葉かけと、〈●「ある程度きれいになったら終わっていいよ」〉とが、対照的な言葉かけであるのが理解できることであった。対照的であるという所以は、前者の回答群が、児童にとって掃除がいつまでも「終われない」可能性に焦点を当てているのに対して、後者は、掃除が「終われる」可能性について焦点を当てていると読むことができる点にある。これは、同じ〈指示〉と位置づけられる言葉かけでも、言葉に込められた意味には違いがあるということを表すものといえるだろう。

また、同一の見出しに分類された言葉かけにおいてさえも、各々異なる性質を持ちうるものがうかがえた。先と同様、【E】の〈指示〉に着目して、●掃除をしよう〉への回答を詳細に見ていくと、とにかく掃除をすることを要求するメッセージ（例：「しっかり掃除しなさい」「ほら、手を動かして」）、おしゃべりをするのは肯定した上で掃除を要求するメッセージ（例：「おしゃべりもいいけど、やるときはやろう」「しゃべりながらもいいからきちんと手を動かしな」）、掃除すべき理由を明示して掃除をうながすメッセージ（例：「みんなで使ってる場所なんだから、みんなできれいにしよう」「みんなで汚したんだからみんなで掃除はしよう」）など、言葉に込められた意味に、いくぶんの違いを見ることが可能である。

上述してきたことを総括するならば、教師が特定場面で実践可能な言葉かけの種類には、ある程度の制限があるものの、いくぶんの多様性を認めることの出来る点が明確になったといえる。

今後の研究課題としては、各場面で取りうる種々の言葉かけが、それぞれ児童にどのように受けとめられ、その後の行動にどう影響を及ぼすかについて検討することが必要である。特に、コミュニケーションのパターンを積極的に変えようと試みる教師にとって、いかなる言葉かけが、児童からのどういった返答をもたらすかということについては、大きな関心事であるだろう。

また、現状では実行困難な言葉かけであるが、実行することの有効性が見込まれるものが存在する可能性も否定できないだろう。仮にそうした言葉かけを実践の場で容易にすることを考えるならば、言葉かけのあり方に制

約を与えている教育現場のコンテキスト変数そのものを操作すること（例えば一斉指導の形式を小集団学習を行う形式にすると、「おしゃべり」をする児童に対して、寛容な態度を示す言葉かけが表れやすいかもしれない）についても、着目していく必要があるかもしれない。

なお本研究では、教員養成系の大学生に、小学校の場面を想定してもらい、言葉かけについての回答を求めた。また、実践しうる言葉かけをできるだけ網羅することをねらい、被調査者に対して、「あなたがこの場面の先生」ならどういった言葉かけをするかという質問に加え、「あなたよりもきびしくする先生」および「あなたよりもやさしくする先生」ならどういった言葉かけをするか、といった形式の質問も行った。こうした回答をひとまとめにして各場面での言葉かけの傾向について割合を算出したが、この割合がどの程度、現実の学校での教師たちの働きかけのあり方と対応しているかについては明らかではない。いずれにせよ、現職の教師を対象にして、同様な検討を行う必要があるだろう。

引用文献

- Brophy, J. & Evertson, C. 1978 Context variables in teaching. *Educational Psychologist*, 12, 310-316.
- Brophy, J. E. & Rohrkemper, M. M. 1981 The influence of problem ownership on teachers' perceptions of and strategies for coping with problem students. *Journal of Educational Psychology*, 73, 295-311.
- Gordon, T. 1974 Teacher effectiveness training. New York: Wyden. (奥沢良雄・市川千秋・近藤千恵 (共訳) 1985 T.E.T. 教師学 小学館)
- 梶田正巳・杉村伸一郎・桐山雅子・後藤宗理・吉田直子 1988 具体的な事例へ保育者はどう対応しているか 名古屋大学教育学部紀要—教育心理学科—, 35, 111-136.
- 川喜田二郎・牧島信一 1970 問題解決学 KJ 法ワークブック 講談社
- 西口利文 1996 問題場面で生じる教師の心理的要因が対処行動に及ぼす影響についての予備的検討 教育心理学論集 25, 47-63.
- 西口利文 1998 小学校で生じる問題場面についての検討—児童報告を通じて生起状況を知る— 教育心理学論集 27, 41-47.
- Sklare, G. 1997 Brief counseling that works: A

solution-focused approach for school counselors. California: Corwin Press.

遊佐安一郎 1984 家族療法入門—システムズ・アプローチの理論と実際— 星和書店

ローチの理論と実際— 星和書店

(1998年9月16日 受稿)

ABSTRACT

Classifications of Teachers' Talks to Students in Problem Situations — Based on the Responses of University Students —

Toshifumi NISHIGUCHI

This paper reports a study which examined what teachers' would say to elementary school students in problem situations. University students ($n = 105$) were presented 10 hypothetical problem situations, in which a teacher and students exist. For all situations, they were asked what teachers would say to the problematic students. Their responses were classified at one of 18 categories which were constructed with K. J. method. Based on the classifications, the tendency of teachers' talks in each situation was surveyed.

Key words: elementary school, problem situations, teachers' talks to students,